

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立神戸高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○ 不断の進化を続ける「高品位な進学伝統校」 ○ 生徒、保護者、地域から信頼され、期待される学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 新たなことに積極的に挑戦する「気概」と、困難に立ち向かう「勇気」を持つ生徒 ○ 自主自立と協働の精神にあふれた社会で活躍できる生徒
	ありたい 教職員像	「生徒の育成」を第一に考え、進取の「気概」とお互いを高め合う「切磋琢磨」、そして「和」して働く「協働」の精神を持つ教師集団

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		〈生徒〉 学力の向上と希望進路実現、楽しく安全安心な高校生活環境 〈保護者〉 子どもの学力向上と進路保障、基本的な生活習慣向上と高いレベルでの人づくり 〈地域社会〉 地域の伝統校としての進学実績向上、地域を担うリーダーの育成・輩出	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	〈保護者〉 学習・進路・生活面でのきめ細かい指導 〈地域社会〉 地域の伝統校としての地位向上と将来を担うリーダーの育成 〈中学校〉 地域の進学校としての存在意義 〈地元大学〉 高大連携、目的意識醸成と基礎学力育成	〈保護者〉 学校と家庭間の連携と支援、信頼関係の構築 〈地域社会〉 学校運営への支援・協力、キャリア教育充実のための連携と協力 〈中学校〉 生徒の学習習慣の定着と生活習慣の確立 〈地元大学〉 高大連携の充実・促進	
(3) 前年度の学校関係者評価等		○ 生徒の進路実現へ向けた家庭学習時間確保(特に2学年)のため、3年間を通じた学習計画の確立と学習意欲の喚起。 ○ 生徒のキャリア形成のための体験学習の充実と一貫した教育および産業との連携構築 ○ 自転車等の交通事故増加の現状から、関係機関との連携した交通安全指導の充実 ○ 規範意識やマナー・リーダーシップの育成に資するための部活動のさらなる活性化 ○ 総勤務時間の縮減・過重労働の削減へ向けて教職員一人ひとりの意識向上と取組強化	
(4) 現状と課題	教育活動	生徒は一定の学力を有しているが、周りの環境に流されたり、安易に妥協したりするなど、十分に学力向上や進路実現につながっていない。特に2学年での学習落ち込みの傾向がみられるため改善が急務。 いじめや特別指導案件は極めて少なく、まじめに努力する生徒が多い。一方、やや積極性や一歩踏み出す力に欠ける面がある。生徒により能動的な学びや生活を促す必要がある。 生徒の進路選択に資するため、学科や学年に応じて講演会・ガイダンス等を実施すると同時に、インターンシップ等の体験に積極的に取り組むよう促しており、徐々に成果が上がっているが、企業等と連携した教育の一層の推進充実が必要。	
	学校運営等	教員は教科指導、進路指導、生活指導、部活動指導等において真摯に取り組む、一定の成果を上げているが、各教員や学年単位での取組に偏る傾向がある。情報共有を進め、組織的な取り組み、成果となる体制づくりが必要である。また、地域の中学生(特に上位層)の他地区へ流出が増加している現状があり、本校の価値を高めること及び情報発信の強化も課題。各教員が持てる力を十分発揮するためにも、過重労働の削減や総勤務時間の縮減に取り組む必要がある。	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○生徒の主体的な学習態度を養うとともに、3年間を通じて継続的計画的な学習ができるシステム構築を目指します</p> <p>○生徒の学習意欲と学力向上を図り、国公立に100名程度合格できる進学状況を目指します</p> <p>○生徒の生活習慣向上とともに、自主性・積極性を引き出すリーダーシップ教育に取り組みます。</p>
学校運営等	<p>○授業内容の改善や授業力向上に組織的に取り組む風土を情勢し、生徒の授業満足度理解度を向上させます。</p> <p>○新指導要領および高大接続改革に更に理解を深め基本的な対応策を明確にします。</p> <p>○校務の合理化を図り、総労働時間の縮減に取り組むとともに、職員の仕事満足度の向上に努めます。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学力向上と学習の習慣化	<p>① 授業理解度および満足度の向上 【活動指標】生徒による授業評価 2 回実施 【成果指標】上記 授業理解度 80% 満足度80% 以上</p> <p>② 学力向上・家庭学習定着・充実(特に2学年落ち込み対策) 各学年で学習習慣入票の活用徹底と学習時間調査継続実施 【活動指標】学習時間調査各学年で4回以上実施 【成果指標】家庭学習週 15 時間以上生徒 65%以上</p>	<p>① 10月・3月実施 3月実施分の結果 理解度 78.3% (A35.7% B42.7%) 満足度 87.4% (A48.0% B39.4%)</p> <p>② 学習時間 1月調査週 15 時間以上 45% (38%) 1年 32% 2年 57% (H29 1年 54% 2年 21%)</p>	◎ ※
進路指導・キャリア教育の充実	<p>① 各学年に応じたガイダンスの実施、生徒の進路意識の向上、進学実績の充実 【活動指標】進路説明会等 各学年 3 回以上実施 模擬試験・資格試験等の積極的活用 【成果指標】国公立大学合格 80 名以上 ※現浪合算</p> <p>② 生徒のキャリア形成のための体験学習への参加促進 【活動指標】生徒への案内や促進の充実 【成果指標】体験学習等への参加延べ 120 人以上</p>	<p>①外部講師講演会 3年 2 回、2年 2 回、1年 2 回 ガイダンス 3年 4 回、2年 2 回、1年 2 回 国公立大学合格 計 70 名(現役 61 名)</p> <p>②看護体験、保育体験、しごと密着等 94 名 神戸中 アシスタントティーチャー 47 名、 神戸小出前実験 25 名 合計 166 名</p>	
安全安心・人づくり	<p>① リーダーシップ教育(自主自立)の充実 留学・種々の事業及び、学校の行事・企画に積極的に参加し 自主自立に加えコミュニケーション能力や協働力を培う 【活動指標】各種事業等への案内・参加促進 【成果指標】高校生議会等、各種事業への参加生徒 30 人以上</p>	<p>① インターハイ推進委員・韓国ピョソム交流・市議会 ティーンズミーティング・地域 創造サミット、科学オリン ピック 計 29 名</p>	

	<p>② 交通安全教育の充実と交通事故の防止 【活動指標】登下校指導、交通安全対策実施合計 15 回以上 【成果指標】交通事故 15 件以下</p> <p>③ 命を大切にする教育推進といじめ防止 【活動指標】いじめアンケートの実施 2 回 講話等 3 回以上 【成果指標】いじめ認知件数 0 件 SNS 問題行動 0 件</p>	<p>② 交通事故は 2 月時点で 11 件(すべて交差点での事故)</p> <p>③ 9 月のいじめアンケートで 1 件のいじめ案件認知 SNS は 0 件</p> <p>5 月に SNS 関係講話 7 月に LGBT 関係講話 10 月命学習関係 講話</p>	
部活動の充実	<p>① 部活動の振興と部活動を通じた人材育成 【活動指標】生徒の部活動加入 85% 3 年間継続 80%以上 【成果指標】東海大会以上出場クラブ数 5以上】</p>	<p>部活動加入 89% 3 年継続 80% 全国大会出場 陸上・演劇・山岳 東海大会出場 陸上 テニス 卓球 水 泳 山岳 演劇 吹奏楽</p>	

改善課題

学習時間の確保については、年明け調査で、1 学年が大きく学習時間を減らしている。学校として学習に対する動機付けを検討していく必要がある。交通事故は 11 件発生している。ほとんどが交差点での事故。評価委員方に指摘いただいたように 0 件を目指して安全への意識徹底をする必要がある。また、今年は交通マナーについての苦情が増えているため、一層の注意喚起が必要。また、いじめも 1 件 2 年生で認知された。また、これに加え、不登校や進路変更といった生徒も例年以上に見られた。保健部、教育相談担当が丁寧に対応しているが、更に学年との連携を強め組織的な対応が必要である。部活動は引き続き活発に活動しているが、学習との両立に課題があり、次年度から新たに取り組みをすすめる(下記参照)

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教員の指導力向上	<p>① 指導力向上の研修等への積極的取り組み、分かる授業実践 【活動指標】授業参観週間(教員相互授業参観)の実施 指導に係る研修会の実施 2 回以上 校外研修会(入試問題研究会・授業力セミナー等)への参加教員 1 人平均 1 回以上</p> <p>② 生徒による授業評価の積極的活用 【活動指標】生徒による授業評価を 2 回実施 【成果指標】指導方法に関する肯定的評価 75%以上</p>	<p>① 9 月授業参観週間実施。校外研修参加延べ 44 名</p> <p>② 生徒による授業評価 10 月・3 月に実施 肯定的評価 88.4% (A50.6% B37.8%)</p>	◎ ※
新制度及び教育改革への対応	<p>① 昨年度設置した教育改革推進委員会の継続、高大接続等への具体的な取り組み推進(e ポートフォリオの導入、探究学習の普通科への導入検討) 【活動指標】委員会開催 8 回以上 【成果指標】e ポートフォリオ本年度導入 普通科への探究的学習の次年度の導入</p>	<p>教育改革推進委員会は 10 回開催、ポートフォリオは既に導入。 来年度①学習土曜(CS)、②2年普通科へ探究「鈴鹿学」導入 ③1. 2年</p>	※

		にClassi導入	
働きやすい 職場づくり	<p>① 総勤務時間の縮減</p> <p>【活動指標】定時退校日 10 日以上・会議時間 1 時間以内 ・ 全部活動休養日週 1 日以上</p> <p>【成果指標】時間外労働月平均前年度(36.3)比 5%減・時間外労働月 80 時間以上職員延べ人数前年度(102)比 5%減</p> <p>② 職員との対話増進、職員満足度の向上</p> <p>【活動指標】職員との対話年間 3 回以上 満足度調査の実施</p> <p>【成果指標】職員満足度 70%以上</p>	<p>定時退校日は年間合計 15 日設定。1 月末現在では平均37.7時間/月(昨年同時期37.5) 80時間以上は延べ96人(昨年度同時期102人)</p> <p>昨年度実施していなかった満足度調査を実施 授業91% 授業外86%</p>	

改善課題

次年度から新たに3つを導入することとなった。学習土曜(CS)導入、総合的探究「鈴鹿学」(2年普通科)、Class i。CSは学習と部活動の棲み分けを行うもので、土曜学習会の活性化と併せて、生徒に浸透させることが最大の課題となる。今年は授業評価を科目ごと、クラスごとに調査し結果を職員に提示した(指導法・内容・理解度の3項目)。肯定的評価は少しでも向上させるよう各自・各教科で授業改善を一層進めていくと共に、各種試験の分析なども教科ですすめ、学習内容にその対策を反映していく必要がある。総勤務時間については、定時退校日の設定等も呼びかけはすすめているが、業務量を削減できていないこともあり、結果ほぼ横ばいの状態。

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年により生徒へのアプローチの仕方が異なり、このことが家庭学習時間のばらつきにもあらわれていると思われる。3年間を通した「生徒の育成プラン」を学校全体で共有、また外部にも公表し、その実現に向けて神戸高校全体で取り組んでもらいたい。 ○ 将来を見通せない生徒が極めて多いことから、早期から将来に対する意識付けができるような環境づくりが必要。1学年から、体験学習等を含めたキャリア教育を充実させてほしい。 ○ 自転車・バイクの交通事故は、件数だけでなく事故の大きさや過失程度も含めて総括することも必要。重大な事故は決してあってはならない。警察等とも連携し、交通安全教育のさらなる充実を図ってほしい。 ○ 社会人に求められる、規範意識やマナー・リーダーシップ・コミュニケーション能力等の育成には部活動が大きな役割を担っている。このことを踏まえ、学習に軸足を置きながらも部活動の充実を望む。 ○ 神戸高校の目指す学校像の一つである「生徒、保護者、地域から信頼され、期待される学校」の実現に向け、教職員一人ひとりがその意識を持って、学校全体で取り組んでもらいたい。
-----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の希望進路実現のために、学習への動機付け⇒学習時間の確保⇒学力向上という望ましい循環を学校全体で求めていく必要がある。組織として生徒の学習定着へ向けての統一した取り組みを行う。 ○進路希望について早期から意識させ、具体的な目標を持つよう支援すると共に全体的なキャリア教育指導計画の共有提示を目指す。 ○普通科2年生を中心に導入する「鈴鹿学」を円滑に実施できるよう体制を整える ○安全安心の面では交通事故については本校生のマナー指導の一層の徹底を行い事故ゼロ、特に重大事故や本校生徒の過失による事故を根絶する。
------------------	--

学校運営につ
いての改善策

- 本年度から実施している個別授業についての生徒アンケートを継続発展し、教科会の有効活用など、各教員・各教科で授業改善を推進する。
- 学習土曜(Challenge on Saturdays 略称CS)導入が生徒への学習時間確保につながるように効果的な運用体制を検討すると共に、更に 100 周年へ向けて更に一步取り組みを進め中学校や地域へ発信を強め、本校への信頼を揺るぎないものしていくことが大きな課題。
- 次年度 1, 2 年生に導入するClassilについて、コミュニケーションツールとしての活用や、生徒や保護者への情報発信の拡充、学習動画等の学習ツールとしての活用など、効果的な運用法を検討する。
- 教職員の働きやすい職場づくりとしては、現状スクラップするものが見つからない現状であるが、引き続き削減できるものの検討を続ける。Classiの活用による事務軽減なども含めて少しでも総勤務時間を縮減すること、また働きがいがあり、風通しのよい職場づくりをすすめる必要がある。